



カウンスル No.8

Newsletter

Vol.35 No.1 Dec.2024

カウンスルNo.8 第 35 期テーマ：冷眼熱心

第 35 期 会長 根岸千代（東葛）



No.8 は今までとはまるで違う、危機、逆境の時です。39 人！とびっくりするほど人数が減ってしまいました。いまだに信じられないほどです。一部の人に負担が行くようになり、段々準備不足にもなり、人間関係もぎすぎすしてくる・・・そういうことを感じ、今期のテーマは「冷眼熱心」にいたしました。冷静に考え熱く行動する、という意味あいです。

出来ない、分からないという言葉も多く聞くようになってきました。年齢のせいにしたい気持ちもあるかもしれませんが、それらはクラブの枠を越えて助け合い、教え合って無くしていきましょう、コミュニケーションをより深め合っていきましょう。皆様の事務的な負担を少しでも解消出来ないかと思い、「ちょこっと勉強会」も始めました。ワードやエクセルやファイルの整理の仕方、パワポなどの勉強ですが、何でも枝葉ではなく本質をとらえる、ということが必要かと思っています。

諸々の不安の中、この少ない人数で無事に第 1 回会合を終えることが出来たのは、一人一人がそれぞれ冷静に、準備を行い、自分のやるべきことが分かっていて、熱意を持って行ってくださったから。機転を利かせ、臨機応変に動くことが出来るのはやはりトレーニングを積んだ ITC-J のメンバーだからこそ、だと思います。プログラムも紆余曲折はありましたが、それぞれのテーブルで熱心に意見交換ができ、実りある時間となりました。

始めは「スルーしてしまう？」と消極的だった「35 年のあゆみ」も、このような時だからこそ振り返る意義があるかもしれない、今まで拓き繋いでこられた諸先輩のこともお伝えでき、それが皆様の力になるかもしれないという思いを込めて作成しました。お楽しみいただけたこと大変嬉しく思っております。

お祝いカード、演台の鮮やかなお花、テーブルの 5 羽の鶴、新しく作成したテーマの幕もあり、35 年の節目を、しっかりかみしめることができました。皆様に深く感謝いたします。



ITC-J 第 43 期 テーマ：原点 継承 前進

35 年のあゆみ

35 年って特に何もやらなくても、40 年でやってもらえばいいかな、などと思っていましたが、ん？40 年の時に居る(この世に)？とは限らないなあと思いなおしました・・・。

「35 年のあゆみ」の発表の時間は 15 分でしたので、35 年間でどうやってその時間内に収めるかな？と迷いました。取り敢えず、歴代の会長のテーマを書き出してみることにして、その作業だけをせっせと続けました。あまりにものっぺりした感じになったので、テーマを黄色い文字にして、役職名は小さくしてみました。その後、八尾さんと山口さんに見てもらい、写真をはめ込んでもらいました。3 人でナレーションを考えて入れてみると、段々写真が増えたのもあり、15 分では無理、でも後のプログラムの時間に食い込むわけにはいけないので、4 分だけ閉会の時間を延ばす、ということにしました。困ったのはコロナの後遺症で 3 か月も咳が続いており、声が出にくい状態だということでした。全く出なくなった折には、ナレーションは山口さんに代わってもらう、ということに。一応出来上がっても、こんなもので良いのかしら？と最後までよくわからないまま。前日まで写真の構成を変えてみたりして。

ナレーションの最後で「テーマを読み上げてみますと、歴代会長のいろんな気持ちがそこに込められていると思います。ITC-JNo.8 が未来へとつながる学びの場であり続けられますようにと願っております。」と言いましたが、偽りのない気持ちです。

挨拶でも申し上げましたように国際が無くなって「ITC」という名称が使えないと分かった時、会員は皆、どんなに ITC を愛しているかを感じたはず。失って初めてその価値が分かる、ということはあると思いますよね。No.8 は決して失うわけにはいけない！と思うのです。皆様に喜んで頂けたようで、ほっといたしました。

35 期会長 根岸千代

「35 年のあゆみ」パワーポイントから抜粋

カウンスルNo.1からの分蜂 No.8誕生



葦崎クラブ誕生 1991.6.12



彩玉クラブ誕生 1993.6.9



橋浜クラブチャーター式



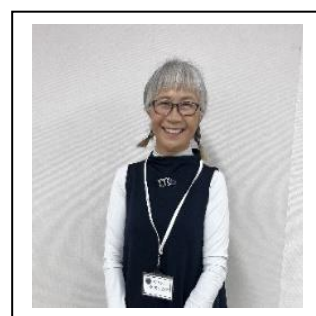
35 期役員からのメッセージ



「^{くるたの}苦楽しい」第一副会長 斉木ゆかり（横浜）

第35期第一副会長で学んだことは、1) 丸腰で会議に参加するな、2) 完璧主義者でなく最善主義者であれ、3) 効率を目標にするな、しかし、効率を意識せよ、4) 工夫しろ、5) 挑戦しろ、です。これらを学べたのはこの仕事を引き受けたからで、心から感謝しています。

「苦楽（くるたの）しい」という造語は、遠藤周作さんが「小説を書くのは苦楽しい」と言ったのが始まりですが、第一副会長の仕事もそうです。一会員としての行動は楽で私の性分に合っています。しかし、委員会でメンバーに意見を促し、予定時間でまとめるのはなかなかチャレンジな仕事です。特に制限時間内に意見をまとめるという作業には毎回ハラハラします。しかし、会議が予定時間内に終わり、しかも会議前にはなかったアイデアが形になった時は何とも言えない幸福感を感じます。これからも苦楽しく第一副会長を行っていきたいです。

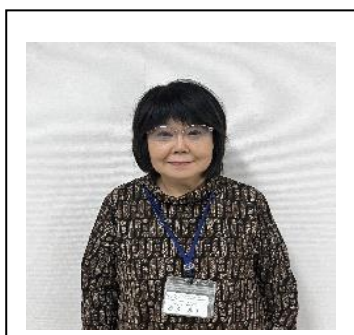


第二副会長 清水享子（荏崎）

今期第二副会長は、会員委員長、さらに ITC-J 会員委員として活動をしています。

会員委員会の一番の目標は、「現会員が退会されないこと」「各クラブ1名以上の新会員をお迎えすること」です。

クラブ内で、コミュニケーションをはかり、例会に参加しやすい環境をつくりましょう。



ITC-J の名刺やパンフレットを他の集まりなどに携帯して、更に「ITC-J 徽章」を付けて行くことをお願いします。きっと、他の方たちから「その徽章はなに？」と聞かれるでしょう。初めの一歩がスタートできます。また、各クラブが少人数ですので、お互いにゲストとして参加して、時にはお役も受けてクラブ間の交流を深めましょう。

今期は、各カウンスルが輪番制で「カルチャーセミナー」を行っています。今までは、年次大会でしか会えなかった他カウンスルの会員と一緒に学習するセミナーです。No.8 は、来年の5月が当番になりますので、皆さんのご参加をお願いします。

書記 八尾和子（東京）



書記として、第1の任務は役員会及び会合の議事録を作成することです。マニュアルには、議事録は完全でしかも簡潔でなければならない、と記載されています。

しかし完全と簡潔を両立させるのは難しいことです。今期は役員会の傾向として完全を優先して作成してまいりました。次回または来年度の役員が事に当たるとき、参考になるようにということも考慮してのことです。従って何年か前、書記を務めた時の議事録に比べてもかなり詳しく記載しております。

これは人数に余裕があり、十分な経験を積んでからカウンスル役員を務めることができた時代に比べて、今はそんな余裕がありませんので、誰でも役員として活動できるようにと考えてのことでもあります。

今回久しぶりに役員の一翼を担い、Zoom やメールの活用で、時間的制限が緩和されて十分な話し合いの下に丁寧に事が運ばれていると実感しております。



会計 江利川富江（彩玉）

今期、カウンスル会計を担当する江利川と申します。

会計は、皆様からお預かりした会費を適正に管理して、全ての収入及び支出を記録する。また、会合ごとに会計報告書を作成し皆様の承認を得る。と書かれています。先日第1回会合が終了し、少しホッとしたところです。期末には役員会の監査に備え、全ての帳簿と記録を保持し、いつでも応じられるよう努めてまいります。

会長始め役員の皆様に助けられながら、この1致年間しっかりとお役を果たしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

議会法規役員 山口久美子（韭崎）

議会法規役員としての任務について、カウンスルNo.8 会則には「議会法規役員は： 7.2.2.a. 要請に応じて、会長および会員に議事運営手順について助言する。」とあります。

一番大切なことは、カウンスル会合を円滑に進めるために「派遣員ブリーフィング」を開催して議事運営手順について説明を行うことだと思います。以前と違って最近ではZoom によって「派遣員ブリーフィング」が行われています。この方法だと当日のブリーフィング会場の用意や会場費の支払いも必要ありません。何よりも、ゆったりとした時間の中で、自由闊達な意見交換ができます。質問が出てきても保存してある資料の中からお答えすることもできます。

会員減少で、会合の当日は準備などで人手が足りなくなるので、事前のZoom による「派遣員ブリーフィング」は合理的だと思います。これからも、できるだけZoom で開催できることはZoom で行い、対面でお会いできる時間は有効活用していきたいと思っています。



カウンスル No.8 第 35 期第 1 回会合



今期第 1 回会合は 2024 年 11 月 2 日（土）13 時より東京ウィメンズプラザで開催されました。35 周年の節目をささやかに内輪だけでも祝いたいという意向に基づいて、会場の設えもいつになく華やかなものでした。

公式訪問者の黒柳美紀子 ITC-J 第一副会長他 2 名のゲストをお迎えし、No.8 会員 30 名（対面 29 名、Zoom1 名）と合わせて出席者総数 33 名のこじんまりとした会になりました。公式訪問者から 13 項目のインフォメーションがあり、今期会員数は 627 名、55 クラブでスタートしたこと、ITC-J 第 43 期テーマは「原点 継承 前進」大会テーマは「充実 笑顔」、特別委員会として、「未来プロジェクト委員会」と「リーダー育成委員会」を立ち上げたこと、年次大会は 2025 年 6 月 30 日、7 月 1 日の両日、ホテル阪急インターナショナルで開催する等の報告がありました。



第 34 期監査報告書及び第 35 期予算案は過半数の賛成を得て採択されました。指名委員選挙は相対多数選挙で行われ、烏谷まゆみ（荏崎）、関原暁子（東京）、武井直子（東葛）の 3 名が選出されました。

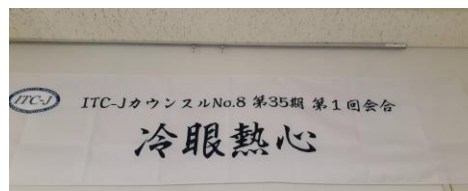
プログラムは斉木ゆかりプログラムリーダー（横浜）の進行のもと、2 部に分かれて実施されました。

第 1 部「カウンスル No.8 35 年のあゆみ」では、パワーポイントで歴代会長・会長テーマ及び映像を提示し、会長のナレーションで 35 年の懐かしい歴史を振り返りました。

第 2 部「プログラムの開発と実施とその先に待っているもの」では、それぞれのクラブが作成したチラシをパワーポイントで紹介し、今回のプログラムへの取り組み状況を発表しました。続いて 6 グループに分かれて、発表内容及びその先の取り組み等について話し合いをし、最後にグループリーダーが各グループの討議内容を発表して、この先 No.8 が活動していく方向を模索いたしました。過去の歴史を知ったうえで、会員減少という大きな変化に直面している現在を見つめ、この先の活動を考える良い機会になったプログラムだと思いました。

勝手知ったる会場での開催ということもあり、事前準備の段階から各クラブがよく協力して効率的に行動し、連携の大切さを実感できた会合でした。

文責：ウェブサイト・会報委員会





第 1 回会合を終えて

カウンスル第 35 期第 1 回会合は、東京ウィメンズプラザ 視聴覚室で開催されました。会員が慣れた会場で、準備委員会は安心して準備を進められ、当日ご出席の皆さまも協力的でした。会員は慣れた会場だと「勝手知ったる ゆとりでしょうか」協力を繋がったと思いました。皆さまに感謝申し上げます。

今回は、35 周年ということで、華やぎ、会員の印象に残る会合になればと準備委員会は裏方として力になりたいと考えました。短い時間の中で形にすることはできませんでした。そのような中、彩玉クラブが飾り花を作成してくださり、大きな華やぎを演出してくださいました。35 周年という言葉だけでなく、会員は五感でお祝いの気持ちを共有することができました。ありがとうございました。

カウンスルの歴史も 35 年以前は、歴史ある No.1 に所属していました。No.8 が新設され、新たな船出をして 35 年が経ちました。プログラム「35 年のあゆみ」では各期を牽引された先輩方のお顔を懐かしく、うれしく拝見しました。会場はいくつかの場を変遷し、近年ではコロナ禍のため、対面の会合ができずオンライン会合を経験したことも記憶に新しいところです。

準備委員会の役割と任務一覧表も状況変化に合わせ更新して、次期に活かされます。ITC-J の活動は評価や引継ぎで、良かった点を確認し、改善点は課題として、より活動しやすいものになる仕組みがあります。クラブ数、会員数も変化していますので、会合運営の在り方から検討する時期が来ていると思いました。

重い荷物もみんなで運べば軽くなります。次期の皆さま よろしく願いいたします。

コーディネーター 関原暁子

<編集後記>

* お忙しい中、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

* 第 1 回会合写真は、他に No.8 ホームページ「アルバム」にも掲載いたします。どうぞご覧ください。

council8.itcjr.jp

ウェブサイト・会報委員会 山内昌子 八尾和子